

# グラントワ応援団通信

第 28 号  
平成23年2月19日  
事務局  
0856・31・1860

## 平成二十二年度の軌跡

### イベントグループ企画

イベントボランティア 城市 恵子

平成二十二年度初旬、日に日に暑くなりかけた七月のイベント会議、我々はその人の存在を知ることとなる。

林 祐作くん十五歳 中学三年生  
地元日原ではかなりの人気者で、彼が舞台に出演するとなればとたんに観客が増えるとか・・・

百聞は一見に如かず  
会議は一転 DVD大会と化す。  
―数分後― ええっ????

現れたのは、見目麗しく艶やかな着物姿で踊る美女♥♥

聞けば、大衆演劇界で役者を目指しているらしい。 ―納得―

「十月十日のきんさいデーで踊れんなあ」とTさん。

「それいいね、生で見たい〜。益田初お披露目じゃあ!」 ―全員一致―  
その翌日には、館長室をノック。

ラントワ開館五周年記念 きんさいデー、ボランティア会推薦でグラントワデビューの林くん。

中庭のステージで、男踊り・女形と華麗に舞い踊る姿に大きな拍手がよせられ大成功! 「きれいじゃねえ・・・」ため息も聞こえてきます。

踊りの合間に、しっかりとボランティア会のPRをさせていただきました。

十月三十〜三十一日、グラントワ神楽フェスティバル「須佐之男命の軌跡」でのこと、イベントボランティアは両日大ホール裏方のお手伝い。

三十日、この日最後の出演で

―きたああ― 林祐作 天照大御神  
今福優さん・道川社中さんとの共演。

舞台がはねてからの楽屋通路は黄色い声に満ちている。コーラスで出演していた女子高生が、林くんと握手したり

写真撮ったり賑やか極まりない。

翌三十一日、自然に必然的に集まってきて話を始めてしまうイベントメンバー。裏方のお手伝いも上の空(苦笑)内容は林くんの舞踊をグラントワの舞台でやろうというもの。地元として応援しよう、激励しようと盛り上がるここの上ない。

話が即決まり、平成二十三年三月十日 小ホール  
―決定―

夢応援プロジェクト  
「舞う 踊る 林祐作と仲間たち」

タイトルもいい感じ・・・  
十二月のボランティア役員会にて皆さんの賛同をいただきました。

☆主催 グラントワボランティア会  
開館五周年にして初の自主企画公演

―やったあ―  
夢応援プロジェクト実行委員会を立ち上げ、スタッフ協力者も増えつつあります。

平成二十二年度下旬、本年度の最後を飾るビックイベントを成功させようと、夢応援プロジェクト実行委員会一同、老体に鞭打ちフル回転(苦笑)

そして新しい風が少しづつ吹き始めました。

ボランティア会のみなさま、一緒に

盛り上げていきましょう!ご協力よろしくお願いいたします。

また当日は大勢の方のお越しをお待ちしています。ご声援ください。

グラントワボランティア会プロデュース 夢応援プロジェクト「舞う 踊る 林祐作と仲間たち」

三月十九日(土)グラントワ小ホール  
開演午後二時(開場一時半)  
入場無料

### 出演

林 祐作

林祐作と仲間たち(舞踊劇)

レディーレア(フラダンス)

スターフレンズ

(子どもミュージカル)

和太鼓 「結」



# モーツアルト「レクイエム」演奏会

## 「島根県民文化祭・石見ステージ」

三月六日（日）午後二時開演

情報ボランティア 大庭 明 博

### ◎ 三大レクイエム

レクイエムは「鎮魂ミサ曲」と訳されまは「死者のためのミサ曲」と訳されまはす。モーツアルトの作品は未完ながら、古今のレクイエムのなかでも屈指の傑作に数えられ、フォーレやヴェルディの作品とともに三大レクイエムのひとつとされています。

### ◎ 作品の成立事情

死の年一七九一年・晩春のある日、灰色の服を着た人物がモーツアルトを訪れレクイエムの作曲を依頼します。それはあたかも死の使者のようであったと伝えられていて、あの映画「アマデウス」でも、フィクションとはいえそのあたりのことが印象的に映像化されています。晩年の家計窮迫の中で承諾しますが、その頃のモーツアルトはオペラだけでも「魔笛」と「皇帝テイトの慈悲」の二つの作曲を抱えており、仕事への着手は漸く九月半ば頃でした。その後も「魔笛」の仕上げや他作品の作曲もあり、過労がたたって二月後には死の床につき、完成することなく一

二月五日に亡くなってしまいました。

### ◎ モーツアルトの想い

モーツアルトはたった十歳で人間のあらゆる感情の幅を理解し、感じ取り、表現できた正にとんでもない天才で、彼の音楽には最大級の感情・情熱・感受性が潜んでいます。最後の作品が皮肉にも自分自身へのレクイエムの様相を呈しましたが、私にはモーツアルトが後世に遺した数多くの名曲のなかでも、最も自分の心を音楽に託そうとした作品のように思えます。

### ◎ 未完の名曲

静かな弦の歩みにのってバセットホルンとファゴットが深く神々しく響く序奏は、既に楽曲の精神や際立った完成度の高さを集約し予感させます。曲の全体はモーツアルトが全部書いている部分、歌唱声部とバスを残した部分、管弦楽声部の主要な音型のみ残した部分より弟子のジュスマイヤーが一部は新たに作曲もして補筆完成させました。弟子の補筆は師匠の創造と比べるべくもなく稚拙なものとの批判のもとに、

現代に至るまで研究者などによっていろいろな版が新たな試みとして発表されてきましたが、その時代にモーツアルトの傍にいて手伝ったり指示を受けていたりしたジュスマイヤーが、ともかくにも完成にこぎつけたのは大きな功績であり尊重されるべきものと思います。一方、モーツアルト自身によって全曲が作曲されていれば、なおどれ程の大作となり得ていただろうという「たられば」に行き着きます。さらに、もう一年でも二年でも命あらば、もっと多くの名曲を遺してくれた筈なのに、わずか三十五歳で夭折したのは本当に残念ですね。でもそうでなくて死の少し前に作曲を終えた、ベートーヴェンも愛したあの「魔笛」を全曲鑑賞できる幸福を私たちは思わないといけないのかもしれない。



### 編集後記

平成二十三年は「十千十二支」の組み合わせでは「辛卯かのとう」です。新年は大雪と低温での幕開けでした。特に一月の寒さ（平均気温）は記録的でした。グラントワの周辺は7回の積雪がありました。玄関にある大蛇の像も雪化粧をしました。寒さの中、入館者は多数あり、「ロボット」の企画展（一月十日まで）は「大入り袋」がでる賑わいでした。

大入り袋と云えば2年前の「黒田清輝展」から連続7回になります。魅力的なものには自然と人気が集まります。また 素晴らしい企画展がはじまっています。松江にある「県立美術館」の名品店です。（タイトルは「夕日につつまれる湖畔から」です。）日本画、洋画、浮世絵、工芸など百十二点が展示されます。ぜひ、お見逃しなく。写真はラファエル・コランの「エリーズ嬢の肖像」と高村光太郎の「手」（彫刻）です。